

各関係機関長 殿

岡山県病虫害防除所長
(公印省略)

病虫害発生予察情報について

病虫害発生予報第2号を下記のとおり発表したの送付します。

平成29年度病虫害発生予報第2号

平成29年5月1日
岡山県

予報概評

作物名	病虫害名	発生時期	発生量	作物名	病虫害名	発生時期	発生量
水稲	苗立枯れ(もみ枯細菌病による苗腐敗)	—	並	モモ	ナシヒメシクイ カメムシ類	やや遅 並	やや少 並
	ヒメトビウンカ	—	少	ブドウ	灰色かび病 べと病	並 並	やや少 やや少
	縞葉枯病	—	やや少				
	ツマグロヨコバイ	—	少	キュウリ等	灰色かび病	—	並
萎縮病	—	並					
	イネミズゾウムシ	やや早	並				
麦類	アブラムシ類 ヤノハモグリバエ	—	やや多	イチゴ	うどんこ病	—	並
		—	やや少	タマネギ	べと病	—	少
ジャガイモ	疫病	並	並	ナス等	ミナミキイロアザミ ウマ	—	並
モモ	灰星病	—	並	アブラナ科 野菜	アブラムシ類 コナガ	やや遅 やや遅	やや多 やや多
	黒星病	—	やや少				
	せん孔細菌病	—	やや多				
	褐さび病	—	並	キク	アブラムシ類	—	やや多
モモハモグリガ	—	やや少					
	ウメシロカイガラムシ	—	並				

1. 普通作物

(水 稲)

(1) 苗立枯れ (もみ枯細菌病による苗腐敗)

予報内容

発 生 量 並

予報の根拠

ア. 昨年のもみ枯細菌病の発生は平年よりやや多であったことから、種
籾の伝染源量は平年よりやや多いと考えられる。

イ. 4月27日の季節予報(1か月予報)によると、気温は平年より高
く、降水量は平年並か少ないとされており、発病を特に助長する条件
ではない。

(2) ヒメトビウンカと縞葉枯病

予報内容

発 生 量	ヒメトビウンカ (第1世代幼虫)	少
	縞葉枯病	やや少

予報の根拠

ア. 県予察圃場における越冬世代成幼虫の4月のすくい取り虫数は0頭
で平年(114.7頭)より少なかった。

(3) ツマグロヨコバイと萎縮病

予報内容

発 生 量	ツマグロヨコバイ (第1世代幼虫)	少
	萎縮病	並

予報の根拠

ア. 県予察圃場における越冬世代成幼虫の4月のすくい取り虫数は0頭
で平年(37.3頭)より少なかった。

イ. 萎縮病は近年ほとんど発生が認められない。

(4) イネミズゾウムシ

予報内容

発生時期	やや早	発 生 量	並
------	------------	-------	---

予報の根拠

ア. 4月20日の季節予報(1か月予報)によると、気温は平年より高
いとされており、越冬成虫の本田への飛込み時期は平年よりやや早い
と考えられる。

イ. 近年、本田での発生密度は減少～横ばい傾向にある。

(麦 類)

(1) アブラムシ類

予報内容

発 生 量 **やや多**

予報の根拠

ア. 4月24日の巡回調査によると、発生圃場率は95.7%で平年(80.9
%)よりやや高かったが、発生程度は軽微であった。

(2) ヤノハモグリバエ

予報内容

発 生 量 やや少

予報の根拠

ア. 4月24日の巡回調査によると、発生圃場率は4.3%で平年(20.9
%)よりやや低かった。

防除上の参考事項

ア. 被害はオオムギで多く、コムギで少ない。多発地帯では水田裏作と

したり、コムギに転換する。

(ジャガイモ)

(1) 疫病

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. ジャガイモの生育は平年並に推移している。

イ. 4月27日の季節予報(1か月予報)によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発生を特に助長する条件ではない。

2. 果 樹

(モモ)

(1) 灰星病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 4月21日の巡回調査(南部)では、花腐れの発生圃場率は25.0%で平年(21.3%)並であった。

イ. 4月27日の季節予報(1か月予報)によると、降水量は平年並か少ないとされており、発病をやや抑制する条件である。

(2) 黒星病

予報内容

発生時期 並 発生量 やや少

予報の根拠

ア. モモの生育は平年並で推移している。

イ. 4月21日の巡回調査(越冬病斑調査)によると、発生量は平年並であった。

ウ. 4月27日の季節予報(1か月予報)によると、降水量は平年並か少ないとされており、発病をやや抑制する条件である。

(3) せん孔細菌病

予報内容

発生時期 並 発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. モモの生育は平年並で推移している。

イ. 前年の発生量が多かったことから、伝染源の越冬量も平年より多いと考えられる。

ウ. 4月27日の季節予報(1か月予報)によると、降水量は平年並か少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 植物防疫情報第1号(4月12日発表)「今がモモせん孔細菌病の防除適期です！」参照。

(4) 褐さび病

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. モモの生育は平年並で推移している。

イ. 前年の発生量は平年並であり、伝染源の越冬量は平年並と考えられる。

(5) モモハモグリガ(第1世代成虫)

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 4月21日の巡回調査(南部)では、発生圃場率は0%で平年(5.7%)より低かった。

イ. 県予察圃場のフェロモントラップによると、4月1～5半旬までの誘殺数は0頭で、平年(8.6頭)より少なかった。

ウ. 4月27日の季節予報(1か月予報)によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発生をやや助長する条件である。

(6) ウメシロカイガラムシ

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. 越冬世代成虫の50%抱卵日は4月18日と推定され、平年(4月20日)並であった。なお、予測式から防除適期(幼虫ふ化最盛日)は5月5日頃と予測される。

イ. 越冬雌成虫の生存率は85.0%で平年(88.7%)並であった。

(7) ナシヒメシンクイ

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 やや少

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップによると、誘殺最盛日は4月14日であり、平年(4月11日)よりやや遅かった。

イ. 4月1～5半旬の誘殺数は11頭で平年(28.0頭)よりやや少なかった。

(8) カメムシ類

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. 前年2月～5月のスギ・ヒノキの花粉飛散数を利用した予測式によると、チャバネアオカメムシが406.9頭(平年371.7頭)で平年並、クサギカメムシが25.7頭(平年16.9頭)で平年よりやや多いと予測される。

イ. 4月27日の季節予報(1か月予報)によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発生をやや助長する条件である。

(ブドウ)

(1) 灰色かび病

予報内容

発生時期 並 発生量 やや少

予報の根拠

ア. ブドウの生育は平年並で推移している。

イ. 4月27日の季節予報(1か月予報)によると、降水量は平年並か少ないとされており、発病をやや抑制する条件である。

(2) ベと病

予報内容

発生時期 並 発生量 やや少

予報の根拠

- ア. ブドウの生育は平年並で推移している。
- イ. 4月27日の季節予報（1か月予報）によると、降水量は平年並か少ないとされており、発病をやや抑制する条件である。

防除上の参考事項

- ア. ブドウべと病に登録のあるストロビルリン系及び作用点が同一の殺菌剤（アゾキシストロビン剤、クレソキシムメチル剤、ファモキサドン剤）に対して感受性が低下した耐性菌が本県の一部で確認されている。本系統の殺菌剤の使用は1作期1回とし、他系統の殺菌剤と組み合わせ使用とする。
- イ. ベと病菌は被害葉で越冬し、翌年5月以降、降雨時に葉裏の気孔から侵入して5月下旬頃から葉に発病することから、前年の被害葉は圃場外に持ち出して処分し、伝染源の除去に努める。

3. 野菜

（キュウリ、ナス、トマト、イチゴ）

（1）灰色かび病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- ア. 4月20、21日の巡回調査によると、発生圃場率はナスでは0%で平年（23.1%）より低く、トマトでは50.0%と平年（55.7%）並であった。イチゴでは50.0%と平年（25.1%）より高く、キュウリでは発生を認めず平年（0%）並であった。
- イ. 4月27日の季節予報（1か月予報）によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

（イチゴ）

（1）うどんこ病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- ア. 4月20、21日の巡回調査によると、発生圃場率は10.0%で平年（13.3%）並であった。
- イ. 4月27日の季節予報（1か月予報）によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発病を特に助長する条件ではない。

（タマネギ）

（1）べと病

予報内容

発生量 少

予報の根拠

- ア. 4月21日の巡回調査によると、発生圃場率は0%で平年（51.2%）より低かった。
- イ. 4月27日の季節予報（1か月予報）によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

（ナス、キュウリ）

（1）ミナミキイロアザミウマ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 4月20、21日の巡回調査によると、キュウリ、ナスでの発生量は
平年よりやや少なかった。

イ. 4月27日の季節予報（1か月予報）によると、気温は平年より高
く、降水量は平年並か少ないとされており、発生をやや助長する条件
である。

(アブラナ科野菜)

(1) アブラムシ類

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 赤磐市における4月1～5半旬の黄色水盤への飛来数は625頭で、
平年（239.2頭）より多かった。

イ. 4月20日の巡回調査によると、ダイコンでは発生を認めず、平年
（発生圃場率：5.0%）より低かった。

ウ. 4月27日の季節予報（1か月予報）によると、気温は平年より高
く、降水量は平年並か少ないとされており、発生をやや助長する条件
である。

(2) コナガ

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 赤磐市における4月1～5半旬のフェロモントラップの誘殺数は、
43頭で、平年（18.2頭）より多かった。

イ. 4月20日の巡回調査によると、ダイコンでは発生を認めず、平年
（発生圃場率：5.0%）より低かった。

ウ. 4月27日の季節予報（1か月予報）によると、気温は平年より高
く、降水量は平年並か少ないとされており、発生をやや助長する条件
である。

4. 花き類

(キク)

(1) アブラムシ類

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 赤磐市における4月1～5半旬の黄色水盤への飛来数は625頭で、
平年（239.2頭）より多かった。

イ. 4月21日の巡回調査によると、発生は平年並にみられるものの程
度は軽微であった。

ウ. 4月27日の季節予報（1か月予報）によると、気温は平年より高
く、降水量は平年並か少ないとされており、発生をやや助長する条件
である。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。

アドレスは、

http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239 です。

